

独立行政法人日本学生支援機構
「海外留学支援制度（協定派遣）プログラムの事前・事後研修」
2019年度調査の概要と総括

学校法人河合塾
教育研究開発本部
教育研究開発部

～ ご報告にあたって ～

- 2020年度、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、海外との行き来できるルートのがほとんどが断たれ、海外プログラムも例に漏れず、計画されていたほとんどを中止とせざるを得なくなった。
- 2020年11月現段階では、やっと再開の兆しが見えつつあるが、従来のように多くの海外プログラムを実施できるようになるためには、今少し時間がかかりそうである。
- 海外プログラムに参加して学修する機会の価値は、これまで以上に高いものになるだろう。
- ゆえに、海外プログラムを通じた学修の効果を最大限に高められる工夫について、これまで以上に考える必要がある。



事前・事後学習の充実化が、学習効果向上のキーとなるのではないか。

本日も報告する内容

1. 調査の目的
2. 事例として取り上げる海外プログラムの抽出
3. 調査の実施
4. 調査の総括



2

1. 調査の目的

短期（1～3ヶ月）の海外プログラムで、事前・事後研修の充実化により成果をあげている事例の紹介を通じて、高等教育機関においてより効果的な海外プログラムを実施するための参考情報を提供すること。

海外留学支援制度（協定派遣）

実施期間

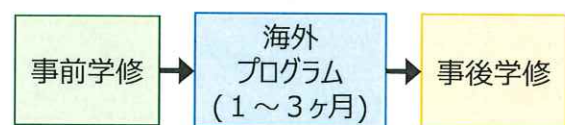
- ▶ 短期：8日以上1ヶ月未満
1ヶ月以上3ヶ月未満

➡ 一定の成果を得られることが重要要件

- ▶ 中長期：3ヶ月以上1年以内

➡ 今後の支援の中心

特に、



事前・事後学修の充実化を通じた教育効果の向上にフォーカスした調査



3

2. 事例として取り上げる海外プログラムの抽出 (1) 抽出方法

抽出対象

平成30年度日本学生支援機構海外留学支援制度（協定派遣）派遣プログラムのうち、形態区分が短期研修・研究型に採択された派遣期間1か月程度～3か月の83プログラム（一部1ヶ月未満のプログラムもあり）。

抽出方法

本調査プロジェクトメンバー（5名）で申請書類を以下の評価観点で評価し、15プログラムを抽出した。

- ① ディプロマポリシーや教育目標との対応関係の明確さ
- ② 全学・学部・学科のカリキュラムとの連携
- ③ 学生の動機付けに資する事前学修（英語による専門や教養の授業の体験、英語ディスカッション、英語でのエッセイの書き方、会話の訓練、現地での活動計画・内容の検討）
- ④ プログラムで学生が学修・経験することの豊富さと明確さ
- ⑤ 帰国後の学修に資する事後学修
- ⑥ 海外プログラムの学修成果の可視化
- ⑦ プログラム改善の組織的取り組み

4

2. 事例として取り上げる海外プログラムの抽出 (2) 事例として取り上げた海外プログラム①

| 高等教育機関名 | プログラム名 | 設立 | 学系 (文・理・教養) | 地域 | 期間 | 主目的のタイプ | | | | | | |
|----------|---|----|----------------|--------|------|----------|------|------|-------|------|---------|--------|
| | | | | | | 英語を手段とする | | | | | ワールドワイド | |
| | | | | | | 語学習得 | 専門履修 | 専門研究 | 共同PBL | 教養履修 | | キャリア開発 |
| 福島大学 | 国際舞台へ「ハバタク」！グローバル人材育成のための派遣交換留学生養成プログラム | 国 | 教 | 北海道・東北 | 5週 | ○ | | | | | | |
| 茨城大学 | 東南アジアの大学生との相互理解を目指した海外派遣プログラム | 国 | 教 | 関東 | 29日 | ○ | | | | | | ○ |
| 新潟大学 | 新潟大学・長期留学に対するレディネスを身につけるための階層的な短期海外研修プログラム | 国 | 教 | 関東 | 5週 | ○ | | | | ○ | | |
| 名古屋大学 | 教養教育としての海外研修プログラム | 国 | 教 | 中部・東海 | 1～3週 | | | | | ○ | | |
| 豊橋技術科学大学 | 海外実務訓練 | 国 | 理 | 中部・東海 | 約2ヵ月 | | ○ | | | | ○ | |
| 大阪大学 | 理工系大学院生のための海外研究発表研修コース | 国 | 理 | 近畿 | 4週 | ○ | | | | | ○ | |
| 鳥取大学 | メキシコ海外実践教育プログラム | 国 | 教 | 中・四国 | 6週間 | | ○ | | | | ○ | ○ |
| 九州大学 | 工学系グローバル・オープンイノベーション人材育成プログラム (ELEP: Engineering Leaders English Program) | 国 | 理 | 九州 | 4～5週 | ○ | | | | | ○ | ○ |
| 大阪市立大学 | メルボルン大学学生とのペアリングにビジネス課題の共同解決 (オーストラリア・メルボルン大学認定ホーソン語学学校での語学研修およびメルボルン大学学生とのペアリングプロジェクト) | 公 | 文 | 近畿 | 5週間 | ○ | | | | | | |

5

2. 事例海外プログラムの抽出

(3) 事例として取り上げた海外プログラム②

| 高等教育機関名 | プログラム名 | 設立 | 学系 (文/理/教養) | 地域 | 期間 | 主目的のタイプ 英語を手段とする | | | | | | |
|----------------|---|----|----------------|--------|------|---------------------|------|------|-------|------|--------|----------|
| | | | | | | 語学習得 | 専門履修 | 専門研究 | 共同PBL | 教養履修 | キャリア開発 | フィールドワーク |
| | | | | | | | | | | | | |
| 酪農学園大学 | 地球上で最も生物多様性の高い地域において野生生物保全手法を学ぶマレーシア・サバ大学との相互協力研修 | 私 | 理 | 北海道・東北 | 34日 | ○ | ○ | | | | | ○ |
| 学習院大学 | FPT大学グローバルインターンシップ（ベトナムFPT大学インターンシップ・プログラム） | 私 | 文 | 関東 | 5週 | ○ | | | | | | ○ |
| 国際基督教大学 | ソフォモアSEA（Study English Abroad海外英語研修）プログラム | 私 | 文 | 関東 | 6週 | ○ | ○ | | | ○ | | |
| 東洋大学 | 国際学部 海外英語実習 | 私 | 文 | 関東 | 5週 | ○ | | | ○ | | | |
| 関西学院大学 | フィールド調査から学ぶ開発経済学と途上国ビジネス | 私 | 文 | 近畿 | 2ヵ月 | | | ○ | ○ | | ○ | ○ |
| 宇部工業 高等専門学校 | アジア地区学術交流協定校における英語によるPBL型技術研修 | 国 | 理 | 中・四国 | 3～8週 | ○ | ○ | | | | | |

6

3. 調査の実施

(1) 調査の方法

【調査形態】
インタビュー



【調査期間】
2019年12月～2020年1月（全15プログラムを調査）

【インタビューの方法】

- ① メンバー3名以上による高等教育機関担当教職員へのインタビュー
- ② 学生とメンバー1対1を基本としたプログラムに参加した学生へのインタビュー

7

3. 調査の実施

(2) インタビュー調査での質問内容

高等教育機関教職員インタビューにおける質問項目のフレーム

- ① 海外プログラムの教育目標
- ② 海外プログラムの設計
- ③ (内容、カリキュラムとの関係、事前・事後学習)
- ④ 学修成果のアセスメントとカリキュラム改善のPDCA
- ⑤ 海外プログラム参加を支援する制度・取り組み

学生インタビューにおける質問項目のフレーム

- ① 入学前の海外・異文化体験、海外プログラム参加に対する気持ち
- ② 参加した海外プログラム
- ③ 事前・事後学習について
- ④ 成長を感じる点
- ⑤ 満足・不満足な点
- ⑥ 今後の学修



8

4. 調査の総括

(0) 本調査で示唆されたこと

- (1) 海外プログラムを含む活動の目的を設定することの有効性
- (2) 事前・事後学習またはカリキュラムと連携させることの重要性
- (3) 英語学修プラスαで構成される海外プログラムの意義
- (4) 海外プログラムを通じて学修した内容を論述することの提案

加えて、・・・

- (5) 多くの海外プログラムにとって効果測定は共通の課題

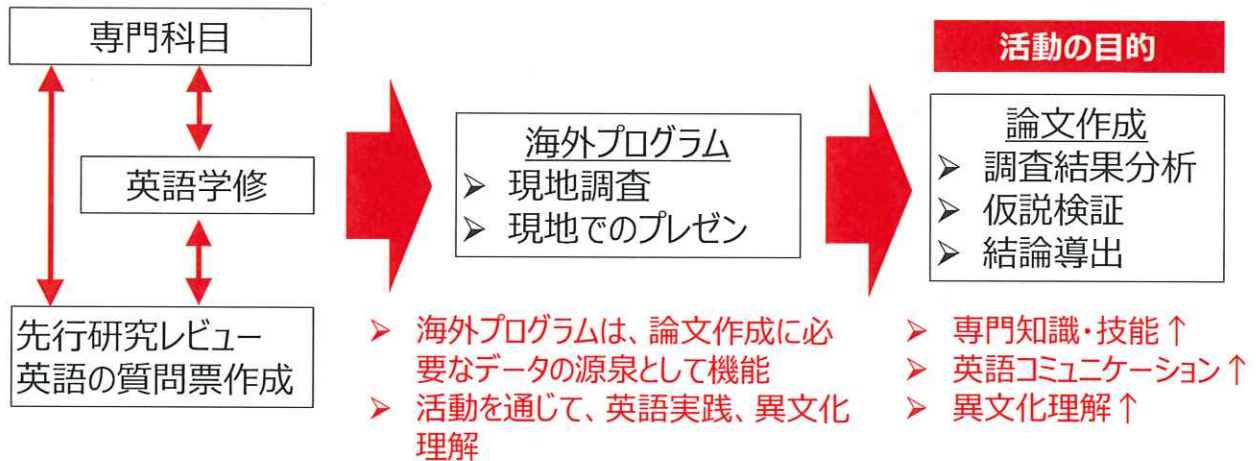
9

4. 調査の総括

(1) 海外プログラムを含む活動の目的を設定することの有効性

海外プログラムを活動の目的の達成に必要な資源を供給する源泉、あるいは目的を達成するための道具として捉えて設計された海外プログラムの有効性は高そうである。

関西学院大学「フィールド調査から学ぶ開発経済学と途上国ビジネス」の事例

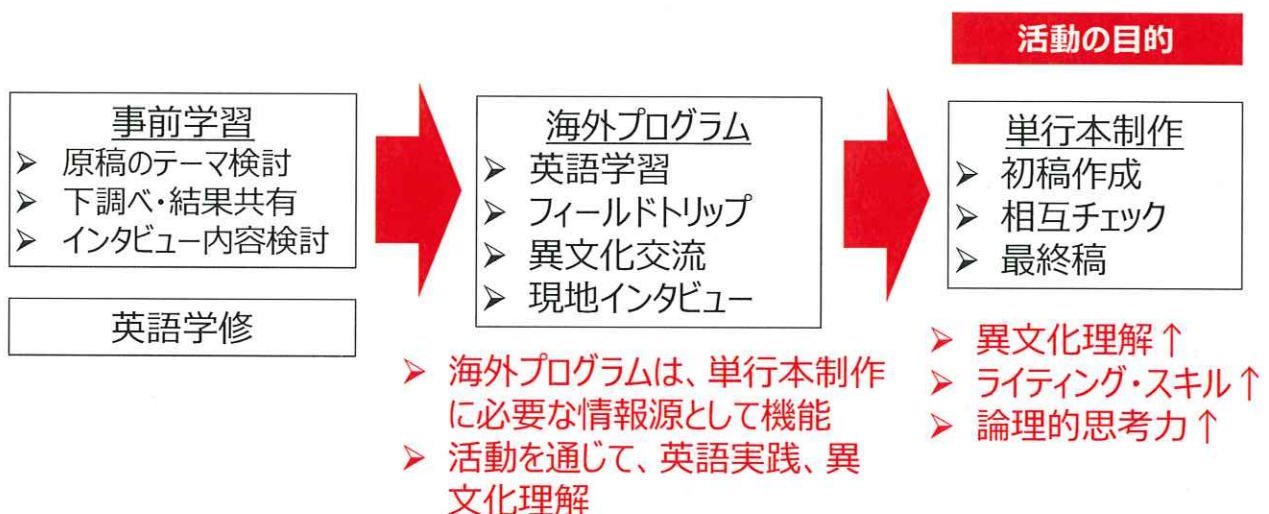


10

4. 調査の総括

(1) 海外プログラムを含む活動の目的を設定することの有効性

茨城大学「東南アジアの大学生との相互理解を目指した海外派遣プログラム」の事例



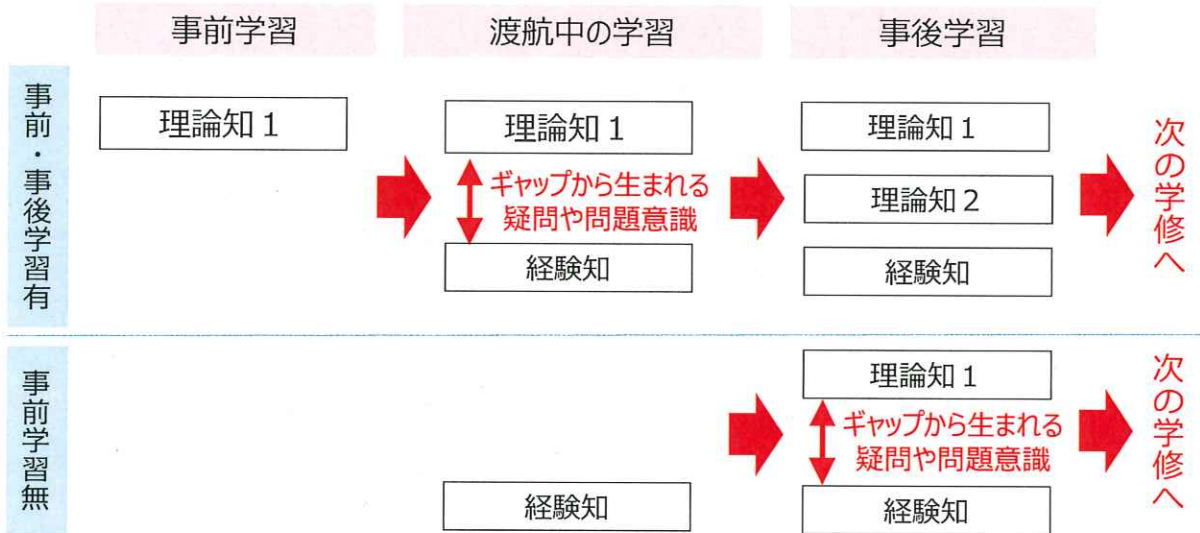
海外プログラムの内容に+αの課題として単行本制作という課題を与えることで、事前学習～海外プログラムへの参加に、学生に目的意識とモチベーションを与えている。

11

4. 調査の総括

(2) 事前・事後学習またはカリキュラムと連携させることの重要性①

海外プログラムに事前・事後学習を設けることは、渡航先での限られた時間を最大限に活用して高い学修効果を得るために重要なことである。



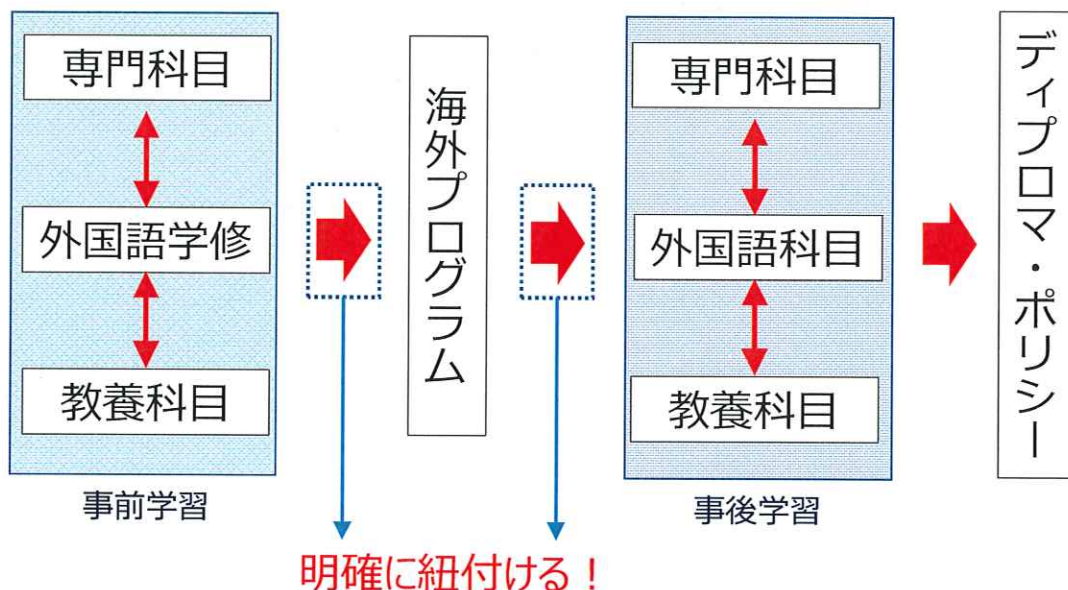
事前・事後学習がある場合とない場合での学修の深化の度合いの違いは明らか

12

4. 調査の総括

(2) 事前・事後学習またはカリキュラムと連携させることの重要性②

海外プログラムをカリキュラムと連携させることは、渡航先での限られた時間を最大限に活用して高い学修効果を得るために重要なことである。

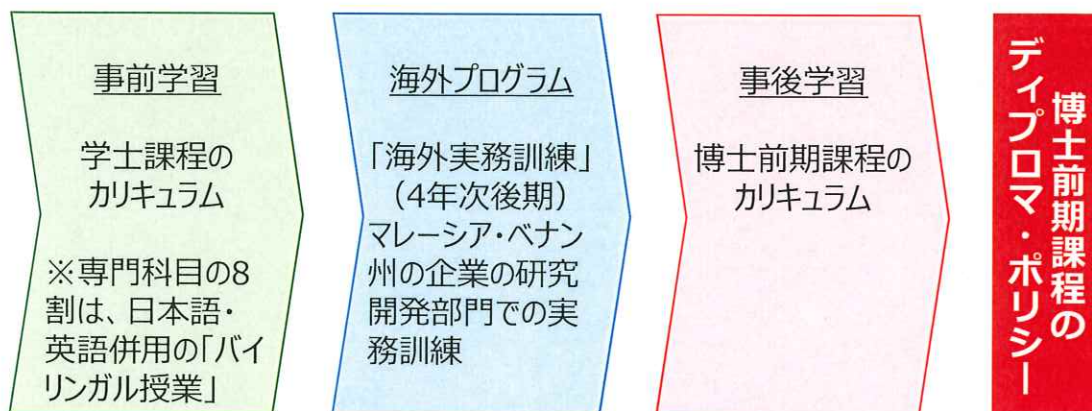


13

4. 調査の総括

(2) 事前・事後学習またはカリキュラムと連携させることの重要性③

豊橋技術科学大学「海外実務訓練」の事例



学士課程のカリキュラムを事前学習とし、海外プログラムは、海外企業の研究開発部門での実務を通し、博士前期課程での学修への問題意識やモチベーションの喚起を促すブリッジ・プログラムとして機能する。

14

4. 調査の総括

(3) 英語学修プラスαで構成される海外プログラムの意義

英語学修を主目的としながら、プラスαとして活動や課題解決を通じた現地での学修を取り入れた海外プログラムは、長期留学に向けたモチベーションとレディネスを育むことが示唆された。

| 高等教育機関 | プログラム名 | プラスαの内容 |
|--------|--|--|
| 福島大学 | 国際舞台へ『ハバタク』！ グローバル人材育成のための派遣交換留学生養成プログラム | 現地学生への東日本大震災や日本文化についての英語によるプレゼンテーション |
| 新潟大学 | 長期留学に対するレディネスを身につけるための階層的な短期海外研修プログラム | 指定のテーマについて現地でインタビューをして考察しレポートを作成する |
| 大阪大学 | 理工系大学院生のための海外研究発表研修コース | アメリカ現地にある研究室や企業に自分で約束を取り付けて訪問し、ネットワーク作りに挑戦する |
| 九州大学 | Engineering Leaders English Program | アントレプレナーシップの育成を目指して大学や企業の協力のもと、講義、フィールドトリップそしてPBLなどに取り組む |
| 大阪市立大学 | オーストラリア・メルボルン大学認定ホーソン語学学校での語学研修およびメルボルン大学学生とのペアリングプロジェクト | ペアリングプログラムとして現地の学生とペアになって課題に取り組みレポートを作成する |
| 東洋大学 | 海外英語実習 | 指定するテーマについてグループごとに現地での調査に取り組む |

15

4. 調査の総括

(4) 海外プログラムを通じて学修した内容を論述することの提案

海外プログラムを通じて学修したこと、考えたこと、体験したことを考察し、論述させるようなことを取り入れるのはどうだろうか。

背景

- 大学の間では、学生の書く力についての問題意識が高まっている。
- 学生自身も書く力を自己の課題としている。



単に活動報告書や感想文を書かせるのではなく、学習内容のアウトプットにもっと工夫が必要ではないか？事例にある論文や市販本の制作ほどでなくとも、学生に高い質を求め、強いモチベーションを発露させるような課題を設定する必要があり、それが学修効果を決定的に左右する。

期待する効果

- 海外プログラムの教育効果向上
- 学修したこと、考えたこと、体験したことを考察して論述することを通し、自己の理解や考えを俯瞰して理解できる。
- ライティング・スキル、論理的思考力の向上

16

4. 調査の総括

(5) 多くの海外プログラムにとって効果測定は共通の課題

| 分類 | 評価手段・対象 | 評価の具体 | 事例数 |
|--------------|-----------------|---|---------------|
| 事前・事後 の変化 | 英語の検定 | TOEIC、TOEFL、IELTS、VERSANT | 9機関 |
| | アンケート | JASSOアンケート、独自アンケート | 5機関 |
| | 自己評価 | 独自アンケート 鳥取大学：グローバル能力評価法 | 8機関 |
| 成果の評価 | 帰国後の制作・ 学修成果 | 茨城大学：単行本原稿 国際基督教大学： 科目「Research Writing」 関西学院大学：論文 | 3機関 |
| | 現地学修成果 | 現地機関での小テスト、授業態度、試験結果の 現地教員による評価 | 1機関 (東洋大学) |
| | 報告書・レポート | テーマを特定したレポート、現地での活動報 告など、英語による報告の大学もある。 | 7機関 |
| | 成果発表 | 報告会、ポスター発表など、英語による報 告の大学もある。 | 4機関 |

各高等教育機関・学部等のディプロマ・ポリシーや教育目標を踏まえて評価観点を設定し、それを評価可能な評価手段・対象を選択、評価ルーブリックの設定をしていく必要がある。

17

ご清聴ありがとうございました。
詳細は、事例動画及び報告書にてご確認ください。



河合塾グループ

< 塾訓 >

汝自らを求めよ

※古代ギリシアのデルフォイ殿堂の入口に掲げられた
「汝自らを知れ」を創立者の河合逸治が
「自ら究め、この世に生まれてきた使命に生きる」と解釈し、塾訓としました。

